

代表機関：兵庫医科大学

## 課題名

## 強迫症を対象とした新規認知行動療法アプリ開発

分担機関：emol株式会社

研究期間：令和5年4月～令和6年3月

## 研究目的・内容

- 経済的損失あるいはQOLの低下という面で最も障害度の大きい10大疾患の一つ[1]である強迫症(Obsessive Compulsive Disorder: OCD)の治療において、第一推奨の治療法として薬物療法と認知行動療法(CBT)があるが、認知行動療法の施行は6.2%[2]と極めて少ない。CBT実施可能な医療機関や医療者が限られている[3]という理由から施行が浸透していないため、CBTを実施可能なアプリを開発することで解決を図る。

## 取り組み・成果

- 強迫症治療のためのCBTアプリの原理検証機を開発し、性能評価を実施した後に初号試作機の開発を完了した。
- 開発計画についてPMDAと相談し、概念的な要求事項を明確化した。

## 今後の展開

- 医療機器製造販売における体制構築を行い、QMS下における開発を進める。
- 医療機器プログラムとしての承認に向けて治験を実施する。

1. Murray CJ, Lopez AD, Jamison DT. The global burden of disease in 1990: summary results, sensitivity analysis and future directions. Bull World Health Organ. 1994;72(3):495-509.
2. 高橋史, 武川清香, 奥村泰之, 鈴木伸一 (2018). 日本の精神科診療所における認知行動療法の提供体制に関する実態調査.
3. 向井馨一郎, 松永寿人 強迫症のアンメットメディカルニーズ 精神科 = Psychiatry 2021 Vol. 39 Issue 4 Pages 409-415

クラス分類：クラスⅡ

## 患者と医師の連携を強化

- 診察時の患者とのコミュニケーションを円滑にする



## 従来の方法との比較

- 従来の対人CBTと比較し、シームレスなCBTの施行が実現

